

No.2237



教育ルネサンス

変わる学習塾 3

学び育む

プログラミング教室急増

コンピューターを動かす手順を論理的に考える「プログラミング教育」。2020年度から小学校で必修化され、算数や理科に導入されることもあって、塾の市場拡大が続く。

3月下旬、東京都新宿区のオフィスビルに小学2〜4年生の8人が集まった。

ロボットを使ったプログラミング教室「ロボ団」。授業は隔週1回3時間。この日の課題は、一足歩行型のロボットを動かすプログラムの作成だった。

「もっとスピードを緩めた方がいいね」。2人1組でロボットを動かすモーターの回転速度や稼働時間を決める。そして、スタッフの指導を受

けながら、パソコンの専用ソフトで稼働時間「10秒」、センサーで障害物を感じた場合は「音を出す」などと指示を入力する。ロボットは無線



ロボ団の教室でロボットを動かすプログラムを考える小学生3月、東京都新宿区で。杉本昌大撮影

◆プログラミング教室で育成する能力や意欲

- ・課題に自発的に取り組み解決する力
- ・ものづくりの意欲
- ・物事をやり遂げる粘り強さ
- ・新しいものを生み出す創造的な力
- ・自ら学ぼうとする意欲
- ・プログラミング言語を使う力
- ・論理的に物事を考える力

※プログラミング教室の運営者らを対象にした国の調査を基に作成

で指示を受信し、動き出した。小学4年生の長男(9)を合わせた都内のIT企業勤務、小林節宏さん(35)は「10年後、パソコンを使いこなせない人は仕事に就けないのではない

か。職業の選択肢を広げる意味でもしっかり学ばせたい」と語る。

ロボ団を運営する「夢見る株式会社」(堺市)は2014年に参入し、フランチャイズ方式で各地の学習塾などに教材や指導法の提供を始め

た。現在は、直営の3教室を含め全国54教室(約1200人)に拡大した。同社最高執行責任者(COO)の中嶋望さん(33)は「先行きの見えない時代を生き抜くために物事を論理的に考え、解決する力をつけさせたいというニーズは高い」とみる。

IT企業「サイバーエージェント」(東京)も13年に子会社「CAテックキッズ」(同)を設立し、小学生向けの教室を始めた。今は9教室(約1200人)を展開する。スタッフが小学校に出向いて子供に教える出前授業を約50件行うなど、学校現場との連携も

強めている。

国がプログラミング教室を運営する塾やNPOなどを対象に実施した16年の抽出調査では、3分の2が13年以降に新規参入しており、急増傾向がうかがえる。

大手も動いている。「学研グループ」(東京)はロボットを使ったプログラミング教育の教材を開発。昨年4月以降、フランチャイズ方式で全国約400教室に提供した。進学塾「栄光ゼミナール」を運営する「栄光」(東京)も、首都圏で小学生向けに8教室を開いている。

ただ、3年後には、プログラミング教育は必修化に伴って小学校の授業への導入が進む。青山学院大の阿部和広客員教授(プログラミング教育)は「学校の授業と大差がなければ、民間の教室は淘汰される。いかに特色を打ち出すかが問われるだろう」と話す。